（別記様式第３号）

# 普及活動検討会実施報告書

登米農業改良普及センター
実施月日：令和　５年　９月　１日
実施場所：JA 東部営農経済センター、中田町現地ほ場

## １　検討内容

| No | 検　討　項　目 |
|---|---|
| 1 | 令和５年度普及指導計画について |
| 2 | プロ課題：農地整備を契機とした地域営農体制の構築について |
| 3 | プロ課題:グリーンな栽培体系の実践による持続可能な稲作経営の実現 |

## ２　検討委員の構成

（単位：人）

| 区　分 | 人数 | 区　分 | 人数 |
|---|---|---|---|
| 先進的な農業者 | 2 | 生　活　者 | |
| 若手･女性農業者 | 1 | 学識経験者 | |
| 市　町　村 | 1 | マスコミ | 1 |
| 農業関係団体 | 1 | 民間企業 | 1 |

## ３　委員の評価と普及センターとしての対応方向

| 検討項目 | 評価値平均値 | 評価結果（コメント、評価表の要約） | 普及センターとしての対応方向 |
|---|---|---|---|
| 令和５年度普及指導計画について | ４．０ | ・地域のニーズや園芸振興、地域計画策定支援など、現状の地域課題を取り込んだ普及指導計画となっており評価できます。<br>・これから５年、１０年先を見据え、地域農業の持続に向けた支援を今後もお願いしたい。<br>・普及センターだけで完結するのではなく、市や JA などと連携し、展開するべきだが、連携先まで思いが波及していない面もあるのではないか。農業情勢は厳しく、計画達成に向けベクトルの合致に期待したい。<br>・活動の展開の方向性にはより細やかな手法を希望します。特に、前年度までの指導対象についても継続的な支援をお願いします。<br>・次世代の人材確保と育成は最も大切なことです。現状よりさらに踏み込んだ深い取り組みを期待します。<br>・計画策定では、ビジョンの掘り下げから現状と目標の | ・今後も関係機関と連携し、地域課題に焦点を当てた普及指導計画の策定、活動実施に努めます。<br>・地域農業の中長期的継続性を意識した普及指導計画策定、支援に努めます。<br>・地域連絡調整会議の開催等により関係機関との意見交換・連携を強化し、各関係機関の支援の方向性が集約されるよう努めます。<br>・プロジェクト課題など、重点的な関わりを持った支援対象については、課題終了後もフォローアップ支援を実施してきていますが、今後も努めて支援していきます。<br>・担い手の確保・育成について、普及センターでは重点活動の位置付けで支援していますが、さらに効率的な活動方法について検討します。<br>・現在の計画策定では課題整理からの計画組み立てが主と |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | | ギャップを具体化し、優先順位をつけて取り組む計画として欲しい。<br>・活動の検証では、活動前の時点での対象農家の意識や問題点を洗い出すこと、そこから活動により少し状況が良くなるところまでで良いように思います。<br>・活動前の課題の状態と活動後の目標の状態がつながって分かりやすく見える計画作りと結果報告の作成をよろしくお願いします。<br>・基本方針で示されている「時代のニーズに対応した農畜産物の安定供給」、「園芸産出額増大に向けた育成・強化支援」、「生産・販路拡大への取り組み支援」の実践により、米生産に偏った経営の脱却と高収益作物への転換推進を図られたい。 | なっているが、関係機関等とビジョン共有できる課題については提案された手法も検討します。<br>・活動の検証では、活動目標に対する成果の評価が中心になることが多いため、提案された対象農家の意識や状況の変化についても留意します。<br>・活動前の状態と具体的な活動内容、活動後の状態が、一連の流れとして分かりやすく表現できるような資料作成に努めます。<br>・米生産に偏った農業経営については地域的な特徴でもあり、関係機関・団体と連携して、高収益作物等への転換が進むよう支援に努めます。 |
| プロジェクト課題<br>農地整備を契機とした地域営農体制の構築について | ３．６ | ・地域農業の担い手減少に伴い、ほ場の大区画化や高性能機械の導入、次代の担い手の明確化など地域にとって重要な話合いの場に関係機関の支援は有り難いこと。こうした話合いの持ち方は市全体の課題なので、他のモデルとなることを期待します。<br>・計画設定はとても評価されますが、活動の方向性がはっきりしない所があり不安が残ります。関係機関との連携を密にし、担い手会議は具体的に進めた方が良いと考えます。<br>・船越集落の法人と手を組んで進めていければ、古宿集落の後継者も安心して経営に参入できると考えます。<br>・高収益作物の導入品目がほぼ確定し、方向性が明確化されつつあることは喜ばしいが、具体化が進むと個人の考え方の違いが出てくるので、地域営農体制の構築に向けて頑張っていただきたい。<br>・なぜ事業承継がうまくいかないか？高齢化や農村の問題点など、真の原因をしっかり分析して欲しい。<br>・農地整備後の課題は、リーダー育成、高収益作物の収益確保、法人間の連携など。現段階では、リーダー研修や小さな連携（栽培計画の検討、機械装備等の見える化）などやれそうなことで良いと思います。<br>・設定目標とした、地域営農構想の具現化に向けた課題の明確化について、法人設立や高収益作物作付支援に | ・地域計画における協議の場や農地整備事業における地域営農構想の策定など、地域における話合いの機会が多くなっており、課題活動での話合いの経過等について横展開できる部分は他地区の参考となるよう整理します。<br>・計画段階で詰め切れていない部分や流動的な部分がありましたが、今後は、より具体的な支援ができるよう、更なる担い手の意向把握や関係機関との連携に努めます。<br>・集落間でより良い連携ができるよう関係機関とともに担い手の支援に努めます。<br>・農地整備事業の進捗により、営農計画が具体化してくるので、関係機関と連携して、担い手同士、本音の話ができるような場を設けるなど、地域営農体制の構築に向けて支援します。<br>・集落内の様々な事情や個々の担い手の状況に寄り添いながらうまく経営継承が進むよう支援に努めます。<br>・実際の農地整備はこれから始まるところですが、次年度は課題の最終年度でもあるため、提案された活動方法についても検討します。<br>・今後も、地域営農構想の具現化に向けて課題を明確化し、法人設立や高収益作物の定着に向けた支援を継続します。 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | | より課題内容の明確化が進んでおり評価できます。 | |
| プロジェクト課題<br>グリーンな栽培体系の実践による持続可能な稲作経営の実現について | ３．９ | ・プラスチックコーティング肥料の環境への影響は理解できるが、コスト面など総合的に見て、ペースト肥料田植機の普及は難しいと考えます。<br>・稲作経営部会との連携により認識が共有されているが、「グリーンな栽培体系」が脱プラスチック肥料にのみ特化した対策では不十分に感じます。<br>・次年度計画策定に向けて、行動を変えるための勉強会での気づきの提供など目標を掘り下げて欲しいです。方向性を間違えないように、望ましい状況を考えてから、何をすべきかの手法の検討をして欲しいです。<br>・地球環境に配慮した米作りを、国を挙げて推進する機運となっている。収量の安定を図りながらプラスチックコーティング肥料による海洋汚染やメタンによる温室効果の軽減に向けた新技術の確立は頼もしい。どちらの課題も農地土壌の特徴に合わせた支援が必要であり、丁寧な指導を期待します。<br>・肥料高騰対策として様々な工夫や技術支援が実施されているが、それに伴う設備費が高く、小中規模には向いていない。他に対策が無いかと思います。<br>・ウクライナ産穀物の輸出停止、中国の日本産海産物の全面輸入禁止等の状況があり、これまでより国内産農作物の生産と消費について考えなければならないと思います。この課題の実現は登米市農業にとって影響が大きいので、是非目標を達成していただきたい。<br>・プラスチックコーティング肥料により農業が環境に負荷をかけていることについて、農家がどのように感じているか、関心度などをアンケート等により把握し、課題解決の方向性を探ることが必要です。<br>・グリーンな栽培体系における技術面での課題は整理されてきたが、課題解決や実践可能性までは至っていない。慣行栽培との比較などを示す必要があります。 | ・プラスチックコーティング肥料の代替肥料には、ペースト肥料以外にも選択肢があるため、関係団体と連携しながら、総合的に普及性のある資材について検討します。<br>・グリーンな栽培体系については、中干期間の延長やバイオ炭の施用などもあり、関係団体と連携して生産現場で必要とする対策について検討します。<br>・次年度計画策定に向けては、導入するグリーンな栽培体系の方向性について、稲作経営部会や関係団体と連携し、すり合わせを行って支援します。<br>・プラスチックコーティング肥料と同等の収量・品質の安定を得るには更なる技術的検討が必要であり、温室効果ガスの発生抑制に向けた中干期間の延長と合わせて、関係団体と連携しながら検討を進めます。その過程で、土壌特性との関係についても検討します。<br>・ペースト肥料田植機は、生産台数が少ないために高価格となっている側面もあります。関係団体と連携して、小中規模の生産農家にも対応できる技術についても検討します。<br>・昨今の世界情勢を見ると、国内で生産する農作物の重要性が高まってきており、更にグリーンな栽培体系の実践は環境保全米を中心とした登米市農業の方向性とも合致しているため、関係機関と連携して支援に努めます。<br>・プラスチックコーティング肥料については、これまで使用してきた農家側の視点も大切にしながら、課題解決の方向性を探っていきます。<br>・グリーンな栽培体系の普及に向けて、慣行栽培との比較検討ができるよう整理します。 |
| その他 | | ・りんごのＶ字ジョイント栽培の視察では農家の挑戦 | ・りんごのＶ字ジョイント栽培は成園化時期も早く、作業性 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | | の姿に感動しました。桃などでもできるようなので、山間地域の果樹栽培が増えると良いと思います。<br>・りんごのＶ字ジョイント栽培は、もっと市民に知ってもらう取り組みが必要と感じます。<br>・普段地道な支援も多いと思いますが、りんごのＶ字ジョイント栽培のような新しい発想や、農家へのアプローチ方法、成功事例の提示など、創意工夫が仕事の楽しさだと思います。<br>・畜産農家へのイネＷＣＳ活用推進により需要が増えれば、主食用米から切替える稲作農家も増えるのではないかと思います。<br>・基本方針で示されている「生産・販路拡大への取り組み支援」の強化をお願いします。<br>・有機センター堆肥の活用が見込める園芸品目の産地化をお願いします。 | も良くなる可能性があるので、今後も推進していきます。<br>・関係機関と連携し、周知に努めます。<br>・りんごのＶ字ジョイント栽培のような新技術の普及活動については、普及センターでも試験場の成果や先進事例の収集と並行した支援となり苦労も多いですが、農業者との連携を楽しんで活動したいと思います。<br>・イネＷＣＳの使用については、敬遠する畜産農家もいるため、有用性や使用上の注意点について周知を図っていきます。<br>・地域の農業者、関係機関・団体との連携により「多様化する需要の変化に対応した生産・販路拡大」を支援します。<br>・市内で生産される堆肥は重要な地域資源であり、園芸品目の産地化と合わせて利用を推進していきます。 |